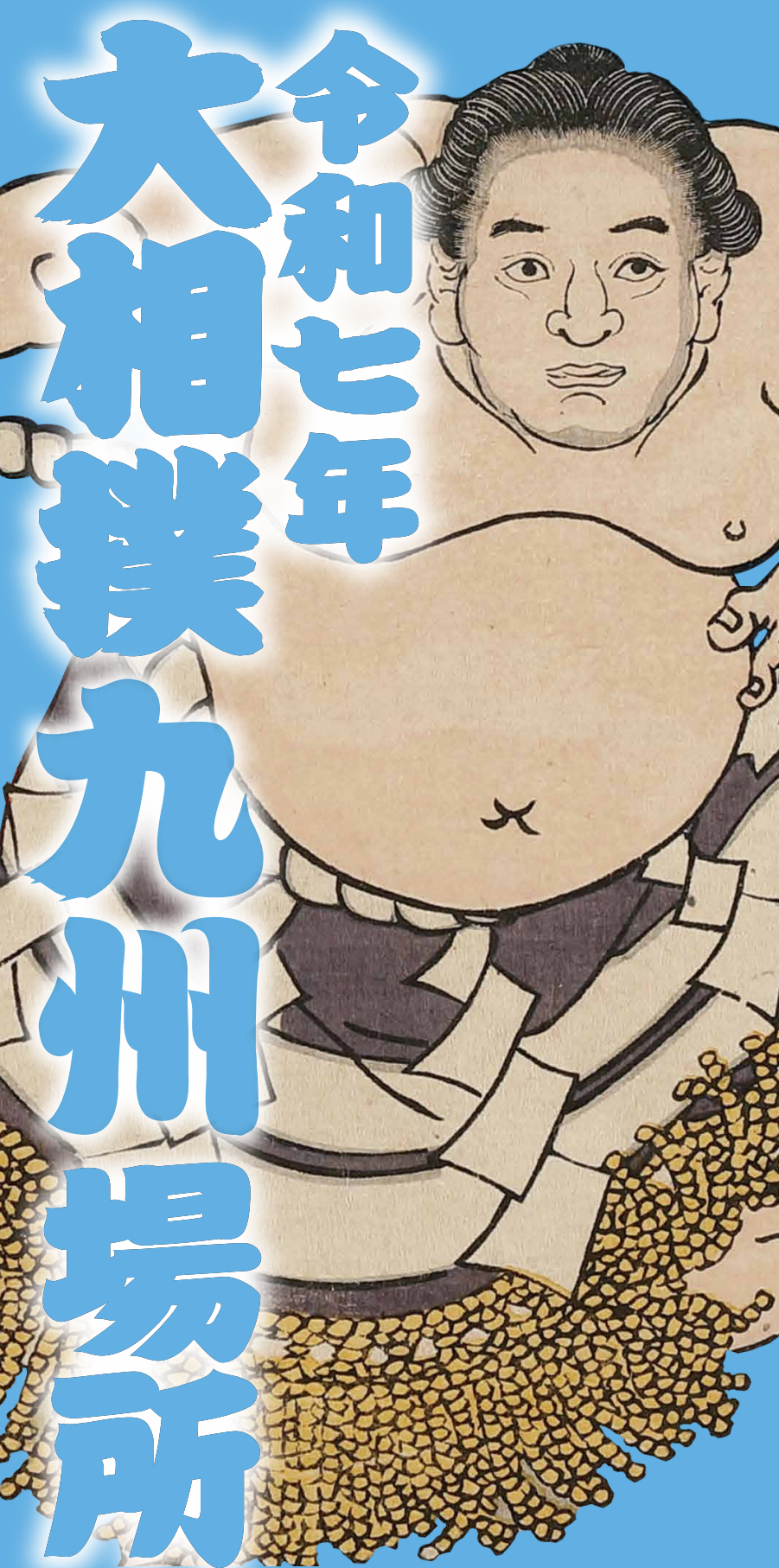




小田原市風祭二四五
電話〇四五二四三三四

鈴廣
なまこ
なまこ

ひとつまみの幸せ。

なとり

ペンシル
ガルパス
PENCIL CALIPAS

袋タイプで使いやすい！

シーチキンSmile

シーチキン
フレック

オイルシーチキン
マイルド

シーチキン
マイルド

※「シーチキン」「シーチキンSmile」「オイル不使用シーチキン」は、はごろもフーズ株式会社の登録商標です。

カニかま
いとしほ

紀文

ジャッキーガルパス
SPICY&JUICY

なとり

竹筍

紀文

ひとつまみの幸せ。

なとり

一度は食べて
いただきたい
おいしいサラミ

永楽園の
お茶の湯

永楽園

行司には「木村」と「式守」の2家があり、「木村」と「式守」と名乗る。ただし、木村から式守、または式守から木村に改名することもある。立行司は木村庄之助と式守伊之助の2人のみ。

仕切り直しを繰り返している間は、両力士の気が合って立つことはないか気を配り、制限時間にいつぱいになれば、腰を割って軍配を返し、両力士の呼吸を合わせる。勝負が始まれば、動きがあるときは「ノコッタ」、動きが止まれば「ハッキヨイ」と声を掛ける。「ハッキヨイ」とは「発気揚々」、すなわち、「お互い元気を出して頑張って相撲を取りましょう」という意味だ。取組の途中で裨が緩んだら、「裨待った」と声をかけて動きを止め、締め直すこともある。勝負が決まればすみやかに軍配を、東西どちらか、勝った力士の方に挙げ勝った力士の四股名を呼ぶ「勝ち名乗り」を挙げ、懸賞金がかかっている際には軍配の上に乘せて渡す。

横綱、幕内、十両の土俵入りでは先導役を務めるほか、結びの一番などさまざまな場面で口上を述べ、土俵を進行させる。時間があ

軍配を手にも、きらびやかな衣装を身にとって土俵に上がり、勝負を裁く行司は、伝統文化としての魅力を伝えてくれる、大相撲に欠かせない存在だ。

行司には、力士と同様に階級がある。横綱にあたる最高位が「立行司(たてぎょうじ)」で、以下、「三役格行司」、「幕内格行司」、「十枚目格行司」、「幕下格行司」、「三段目格行司」、「序二段格行司」、「序ノ口格行司」と続く。階級に応じてたちも違い、幕下格以下は裸足、十両格以上は足袋を履き、三役格以上はさらに草履を履く。装束の縫い目にとじ付けられた「菊綴じ」といわれる房飾りの色も階級によって違う。また、立行司だけは腰に短刀を差している。

行司の世界

◆大相撲よもやま話◆◆

蟹弟子
「かにーでし」

ヘルシー＆ハッピー
スギヨ
SUGIYO CO., LTD.

カニカマの生みの親

75
はんぺん
大判

紀文

40
魚河岸あげ

紀文

一度は食べて
いただきたい
贅沢なチーズ鱈

なとり

チーちく

紀文

どうき
息切れ
気つけに

救心

救心製薬株式会社



幕内土俵入りの先導を行う幕内格行司の木村朝之助。房と菊綴じの色は紅白



十両土俵入りの先導を行った後、土俵中央で腰を落とす十枚目格行司の式守慎之助。房と菊綴じの色は青(緑)と白。十両格以上は足袋を履いている



勝ち名乗りを挙げる序二段格行司の木村龍之助。房と菊綴じの色は青(緑)。幕下格以下は裸足で土俵に上がる



結びの触れを行う立行司の木村庄之助。房と菊綴じの色は総紫。腰には短刀を差している



勝負を裁く三役格行司の木村寿之介。房と菊綴じの色は朱。三役格以上は草履を履いている

る時には、翌日の取組を披露する「顔触れ言上」も行う。前相撲を取り終え、翌場所から番付に載る力士たちを紹介する「新序出世披露」でも口上を述べる。場内アナウンスも行司の仕事で、取組や土俵入りの際に力士の四股名などを紹介し、取組の勝ち負けを決まり手とともに知らせたりする。初日前日の土俵祭では祭主を務める。

相撲字を書くのも行司の仕事。太くすぎまのない独特の書体で書かれる、取組で対戦する2人の四股名を示す「顔触れ」などが相撲情緒を盛り上げる。中でも重要なのが力士のランキングを示す「番付」で、特に相撲字に秀でた幕内格行司が書き手となり、助手2名とともに毎場所、書き上げていく。また、本場所中は、巻物状の「巻」に勝負結果を書き入れたり、審判委員が決めた翌日の取組を書きとって、すでに対戦していないかなどのチェックを行ったりもする。

その他、巡業では、各地をスムーズに移動するための段取りをしたり、次の宿泊先などを知らせる掲示物を書いたり、土俵を下りて、華やかな装束を脱いださまざまな仕事をこなし、大相撲を支えているのだ。

◆十一月場所の優勝力士◆

戦後初の福岡での本場所を 平幕玉乃海が制す

昭和32年十一月場所優勝 玉乃海（東前頭十四枚目 15戦全勝）



九州で初の本場所が行われたのは昭和5年10月のこと。須崎裏に1万4千人収容の福岡仮設国技館を築いての晴天11日間の興行は連日満員の大盛況だったが、昭和7年、相撲界を揺るがす春秋園事件が発生した影響から、東京以外での本場所開催はなくなってしまった。しかし、終戦後、焼け野原からの再生を目指して、再び東京以外での開催に視野を広げるなか、昭和30年11月、「福岡準本場所」を開催。博多の中心街・天神に開業した福岡スポーツセンターのこけら落としとして行われた十五日間の興行は大盛況で、翌31年11月に2度目の福岡準本場所開催した後、本場所への昇格が決定した。

こうして昭和32年11月、戦後初めて開催された福岡での本場所は、直前の九月場所で6度目の優勝を果たしていた東横綱栃錦と、安定した成績を続けていた東大関若乃花が快調に白星を連ね、2人の優勝争いと思われたが、十日目、若乃花は東張出関脇時津山に、栃錦は東小結若羽黒に相次いで黒星。東前頭十四枚目の玉乃海が単独首位に立った。

玉乃海は地元九州の大分県大分市出身、二所ノ関部屋所属で、この時34歳のベテラン。怪力を生かした櫓投げを得意とし、「荒法師」の異名を取った個性派で、酒豪として知られ、昭和15年、上海巡業中に酔っぱらって憲兵を殴り、協会を破門になった過去を持つ。海軍に従軍して南洋の戦地に赴き、米軍に敗れてジャングルに逃げ込み、マラリアとアメーバ赤痢にかかりながら命からがら帰国。昭和25年に許されて幕下付け出しで復帰して幕内上位に進出。新小結の昭和31年九月場所、横綱栃錦を破つての九勝六敗で殊勲賞に輝き、新関脇の翌32年一月場所は横綱吉葉山を破って十一勝四敗で敢闘賞、翌三月場所は千代の山、栃錦の2横綱を破って十一勝四敗で殊勲賞と大活躍を続けて大関候補に名乗りを挙げた。しかし、その直後にマラリアが再発して2場所連続休場し、この場所から東前頭十四枚目で復帰したばかりだった。

後援会から贈られた黄金色の締め込みをつけた玉乃海は、病み上がりとはいえこの位置では実力が違い、初日から連戦連勝。十日目に単独首位に立った後も白星を重ね、十三日目、抜擢されて対戦した東小結若羽黒も叩き込みで退けて破竹の十三連勝。この日、栃錦が西大関朝汐に寄り

切られて2敗に後退し、1敗で追うのは若乃花だけとなった。十四日目、玉乃海が東張出関脇時津山を引き落として十四連勝とした後、若乃花が栃錦に吊り出されて2敗目。1敗の力士がいなくなり、玉乃海の平幕優勝が決定。千秋楽は西前頭十六枚目廣瀬川を掬い投げで退けて見事に十五戦全勝優勝を達成し、敢闘賞も獲得した。戦後初の九州での本場所を、黄金色の締め込みを締めた地元九州出身の平幕玉乃海が全勝で制したことは大きな話題となり、それから今年まで70年、十一月場所は会場を変えながらも福岡で開催され続け、「一年納めは九州場所」として定着している。

玉乃海は三役に復帰した翌昭和33年一月場所は五勝十敗と負け越したものの、以後もしばしば金星を挙げるなど存在感を示した後、昭和36年一月場所限り、38歳で引退。独立して興した片男波部屋から横綱玉の海らを育てている。



戦後初の九州での本場所、黄金の締め込みを締め全勝で平幕優勝を成し遂げた玉乃海

この場所の熱戦が動画で楽しめる



日本相撲協会公式YouTubeチャンネルの「大相撲アーカイブ場所」で、昭和32年十一月場所の総集編の動画を公開中。メンバーシップ登録（月額990円）すると視聴できます。下のQRコードからアクセスしてください。



◆大相撲「モノ」語り◆

座布団

取組前、花道から東西の控えに入ってきた幕内力士は、二つ折りにした座布団の上に座り、取組に向けた集中力を高めていく。この座布団は「控え座布団」ともいい、90〜100センチ四方で厚さは約20センチのものを二つ折りにして使う。力士一人ひとりの「M.Y座布団」で、四股名が大きく染め抜かれており、色使いも力士によって違い、それぞれの力士の個性が感じられる。

座布団の入れ替えは、付け人と呼出しの連携によって行われる。控えに座る東西それぞれ2人ずつ。1人が取組の順番が来て土俵に上がる、2番後の取組で相撲を取る関取の付け人が、座布団を持って土俵の近くまでに行き、呼出しに渡す。呼出しは、その座布団を、土俵に上がっ

ている力士が使っていた座布団と入れ替えて付け人に渡す。付け人はそれをもって花道を下がり、その座布団の持ち主の関取の付け人に渡し、入れ替わりに関取が控えへと向かう。これが取組ごとに繰り返される。

ただし、M.Y座布団を使えるのは幕内力士のみで、十両は共用の座布団を使う。幕下以下は座布団を使えない。こんなところにも番付を重んじる、相撲界の伝統と厳しさが感じられる。



呼出しが付け人から座布団を受け取る



呼出しが、受取った座布団を控えの座布団と入れ替える



おかげさまで100周年
公益財団法人 日本相撲協会



ひとつまみの幸せ。
O なのり



※「シーチキン」「オイル不使用シーチキン」は、はごろもフーズ株式会社の登録商標です。

